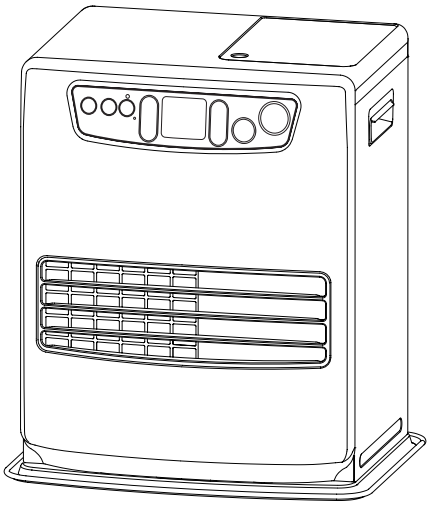
TOYOTOMI

型式 9127 ダブリュー エー エヌ **WA-N33**

石油ファンヒーター
強制通気形開放式石油ストーブ



取扱説明書

（保証書付き）

裏表紙に付いています。

このたびはお買い求めいただき、
まことにありがとうございます。

●ご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく使用してください。
この「取扱説明書」は、大切に保管しておいてください。

製品アンケートにご協力ください

製品アンケートはこちらです。
https://www.toyotomi.jp/survey/
※通信料などはお客様のご負担になります。

目　次

1 安全のために必ずお守りください …… 1～4
2 使用する場所 …… 4
3 各部のなまえ …… 5～6
　外観図 …… 5
　操作部 …… 5
　表示部 …… 6
4 使用前の準備 …… 7～10
　ストーブを取り出す …… 7
　燃料 …… 7
　給油のしかた …… 8
　給油の目安・給油延長運転のしかた …… 9
　点火前の準備と確認 …… 9
　高地調整 …… 10
　現在時刻の設定のしかた …… 10
5 使いかた …… 11～15
　点火のしかた …… 11
　炎の状態 …… 11
　室温の調節のしかた …… 12
　エコ運転のしかた …… 12
　タイマー運転のしかた …… 13
　消火のしかた …… 14～15
　クリーニング燃焼表示 …… 15
　換気表示 …… 15
　チャイルドロックのしかた …… 15
6 日常の点検・手入れ（※油タンク内の灯油の抜きかた） … 16～17
7 定期点検 …… 17
8 設計上の標準使用期間 …… 18
9 故障・異常の見分けかたと処置方法 …… 19～20
　異常のお知らせ（デジタル表示の見かた） …… 19
　修理を依頼される前に …… 20
10 部品交換のしかた …… 20
11 保管（長期間使用しない場合） …… 21
12 廃棄するとき …… 21
13 仕　様 …… 21
14 アフターサービス …… 22
保証書 …… 裏表紙

株式会社トヨトミ

1 安全のために必ずお守りください

●お使いになる人や他の人への危害と財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しく使用するために、必ずお守りいただくことを説明しています。
●ここに示した表示は、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険(DANGER)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告(WARNING)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意(CAUTION)	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●お守りいただく内容を、次の絵表示で区分しています。

	この絵表示は、「禁止」されている内容です。
	この絵表示は、「注意」していただく内容です。
	この絵表示は、必ずしていただく「指示」内容です。

●説明文中の**「お願い」**事項は、本製品を誤りなく正しくお使いいただくための内容が記載されています。

⚠危険 (DANGER)

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
少量の混入でも、火災の原因になります。

⚠警告 (WARNING)

★スプレー缶厳禁

スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、ストーブの前や温風のあたる所に放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

★換気必要

●換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。また、乳幼児や呼吸器疾患などのかたは、体調不良になるおそれがあります。
●使用中は必ず1時間に1～2回(1～2分)換気して、新鮮な空気を補給してください。
●換気する場合は、換気扇を使用したり(換気扇を使用する場合は、離れた位置の窓を開けないと、充分な換気ができない場合があります。)2箇所以上の(風の出入りのある)開口部を設けると効率よく換気できます。
窓が凍結していたり、地下室などで換気が充分におこなえない場所では、使用しないでください。

★温風吹出口(ルーバー)をふさがない

ストーブガードなどの囲いに干し物を掛けたり、衣類、紙などで温風吹出口(ルーバー)や燃焼・温風空気取入口(ファンフィルター)をふさがないでください。衣類、紙などでふさぐと、異常燃焼や火災や、操作部の変形など故障の原因になります。

★衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が乾燥すると、ストーブの熱気でゆれて落下して火がつき、火災の原因になります。

★寝るとき消火 ※外出するとき消火

寝るときや外出するときは、必ず火が消えていることをご確認ください。
また、人目の届かないところでは、使用しないでください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

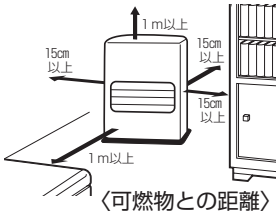
★可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの(ガソリン、ベンジン、シンナー)や、スプレーを使用しないでください。火災や故障の原因になります。

⚠警告（WARNING）

★可燃物近接厳禁

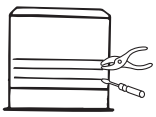
●カーテン、布団、毛布などや燃えやすいもの
のそばでは使用しないでください。
火災の原因になります。
ストーブの前に可燃物を置かないでください。
●可燃物とは図に示す距離を確保してください。



〈可燃物との距離〉

★改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
安全装置の無効化などストーブの安全性を損なう改造は火災など思わぬ事故の原因になります。



★外付け装置による遠隔操作厳禁

スマートフォン、IT機器を使って石油ファンヒーターのスイッチを操作する外付け装置（※）は安全性を確認できないため、使用しないでください。
※操作ボタン付近に設置し、インターネット通信等を介して操作ボタンを入り切りできる装置

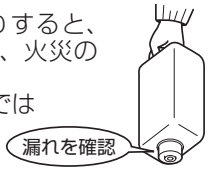
⚠注意（CAUTION）

★給油時消火

給油は必ず消火していることを確認して、ストーブの温度が充分下がってから、他に火の気のない所でおこなってください。
火災のおそれがあります。

★油漏れ確認

●給油口口金は確実に締めてください。
給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災のおそれがあります。
●油タンクから油が漏れる状態では絶対に使用しないでください。
火災のおそれがあります。



★不良灯油使用禁止

変質灯油、不純灯油（灯油以外の油・水・ごみが混入した灯油など）などの不良灯油は使用しないでください。
異常燃焼や故障の原因になります。

★温風ダクトの使用注意

市販の温風ダクトを使用する場合は、やけどのおそれ、こたつへの悪影響等が考えられるため充分ご注意ください。

★ほこりの除去

燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）は、週1回以上必ず掃除してください。
ごみ、ほこりなどで燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）がつまると、異常燃焼のおそれがあります。

★異常・故障時使用禁止

油漏れやにおい、すすの発生、炎の状態、エラー表示を繰り返すなど異常や故障と思われるときは、使用しないでください。事故の原因になります。
緊急の場合でもあわてずに消火してください。
「故障・異常の見分けかたと処置方法」（19・20 ページ）に従って処置してください。

★温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたったり、ストーブの前に長時間い続けないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
また、温風を直接吸い込まないでください。
気分が悪くなることがあります。

★移動・運搬するときの注意

●ストーブを移動するときは、必ず消火し、ストーブの温度が充分下がってから油タンクを取り出し、手掛けを持って傾けないように静かに移動してください。
油が漏れたり、火災になるおそれがあります。
●修理・引越しなどでストーブを運搬されるときは、油タンク、油受けざらの灯油を必ず抜いてください。
運搬の途中に灯油がこぼれ、周囲を汚すおそれがあります。
●移動するときは引きずらないでください。
床面、畳、カーペットに傷を付けたり、本体底面の塗装がはがれて錆の原因になるおそれがあります。

★高温部接触禁止

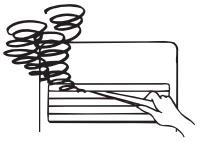
燃焼中や消火直後は、高温部、温風吹出口（ルーバー）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。

1 安全のために必ずお守りください

⚠注意（CAUTION）

★指や異物を入れない

温風吹出口（ルーバー）や燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）やストーブ内部に
指や可燃物・針金などの異物を入れないでください。
けがや火災のおそれがあります。



禁止

★分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は危険です。

分解禁止

★保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき、または保管するときは、必ず灯油を抜いて、電源プラグをコンセントから抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

指示

★電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、傷付けたり束ねたり、物をのせたり加工しないでください。
また、電源プラグを抜くときは、電源コードを持って引き抜かないでください。
電源コードが破損し、火災や感電の原因になります。

禁止

★長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因となります。

電源プラグを抜く

★電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
（また、傷んだ電源プラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。）
火災の原因になります。
濡れた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

指示

★電源プラグのお手入れをする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり（及び金属物）を除去してください。
（ほこりや異物がたまると湿気などで絶縁不良になり）火災の原因になります。

指示

★お子様やお年寄りのご使用に注意

お子様やお年寄り、体のご不自由なかたがお使いになる場合は、ストーブの取扱い、部屋の換気、高温部への接触によるやけど、低温やけどや脱水症状などについて周囲の人が充分に注意してください。

指示

★腰をかけたり物をのせない

ストーブの上にのったり、腰をかけたりしないでください。ストーブの故障や、やけどのおそれがあります。
ストーブの上に花びんや飲みものなど液体の入った容器を置かないでください。
水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

禁止

★廃棄するとき

ストーブを廃棄処分するときは、必ず油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。
（油タンク、油受けざらの掃除 17ページ参照）
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際、予想しない事故が発生するおそれがあります。

指示

★次の場所では使用しない

火災や予想しない事故や故障の原因になります。

使用禁止

水平でない場所、不安定な場所

- 傾斜した場所や振動の激しい所では、使用しないでください。
  対震自動消火装置が誤作動することがあります。
- しっかりした安定した場所で使用してください。
- 毛足の長いじゅうたんの上では使用しないでください。
- 移動車両の中や、不安定な台上で使用しないでください。
  転落したり、火災になるおそれがあります。

風のあたる場所、部屋の出入口、屋外

- 風のあたる場所や屋外では使用しないでください。
  炎が出て危険です。掃除機の排気にも注意してください。
- 部屋の出入口など人の通る場所、人がぶつかったりつまずく場所で使用すると、転倒して事故や火災が起きるおそれがあります。

⚠注意（CAUTION）

★次の場所では使用しない

火災や予想しない事故や故障の原因になります。

暖炉などストーブが囲われる場所

●暖炉や押入れに入れての使用など、特殊な使いかたをしないでください。
火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所

●粉類や繊維を取扱う場所や温室・養鶏場など塵やほこりの多い場所では使用しないでください。
燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）が目づまり状態になり、異常燃焼や異常過熱を起こすおそれがあります。

理・美容院、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所

●理・美容院、メッキ、塗装工場、電子部品組立工場、繊維関係工場などでは使用しないでください。
ストーブの故障や、腐食性ガスの発生により金属・鏡・ガラスなどを傷める原因となります。
●石油ファンヒーターで暖房する部屋ではシリコーンを配合した枝毛用コート液やヘアートリートメント（枝毛用）は点火ミスや、途中消火など故障の原因になりますので使用しないでください。

可燃性ガスの発生する場所、またはたまる場所

●爆発や火災の原因になります。

温室・飼育室など人のいない場所

●使用環境の変化で、予想しない事故が発生するおそれがあります。

不安定な物をのせた棚などの下

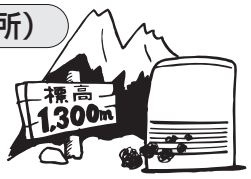
●落下物により火災が起きるおそれがあります。

直射日光のあたる場所、温度の高い場所

●異常燃焼を起こすおそれがあります。
●油タンクの灯油があふれ出て火災のおそれがあります。

高地（1300m以上の場所）

●酸素濃度が薄いので異常燃焼を起こすおそれがあります。



★シリコーン配合製品を使用しない

●石油ファンヒーターの故障の原因になることが注意表示されているヘアケア商品等は、シリコーンが配合されています。石油ファンヒーターと同時に使用しないでください。
また、洗面台などで洗い流されないヘアートリートメント等などのヘアケア製品を塗布され、乾かさずに石油ファンヒーターを使用中の部屋へ移動した場合も故障の原因となりますので、ご注意ください。
●上記の注意表示がなくてもシリコーンが配合されている商品（化粧品類、衣類等の防水剤・柔軟剤等、家具等のつや出し剤・保護剤等）も同時使用は控えてください。
●やむなくご使用になる際は石油ファンヒーターの運転を一時的に停止し、使用後は換気を充分におこなってシリコーン等の成分を屋外に排出してから運転を再開してください。
●シリコーン配合製品が原因で、故障した場合の修理については、保証期間中であっても保証の対象外となります。

お願い（NOTICE）

★灯油の廃棄

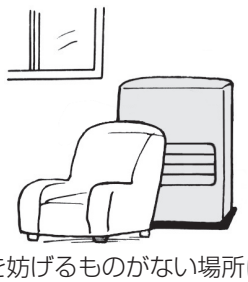
灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

★結露に注意

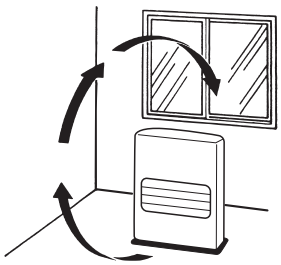
ストーブは室内で燃焼するため、気密の高い部屋などでは、換気を充分にしてください。換気をしていないと、壁や天井に結露してカビが発生する場合や、結露によってパソコンや電気機器等に障害が生じるおそれがあります。

2 使用する場所

★効果的に使用するために



●温風の循環を妨げるものがない場所に設置してください。



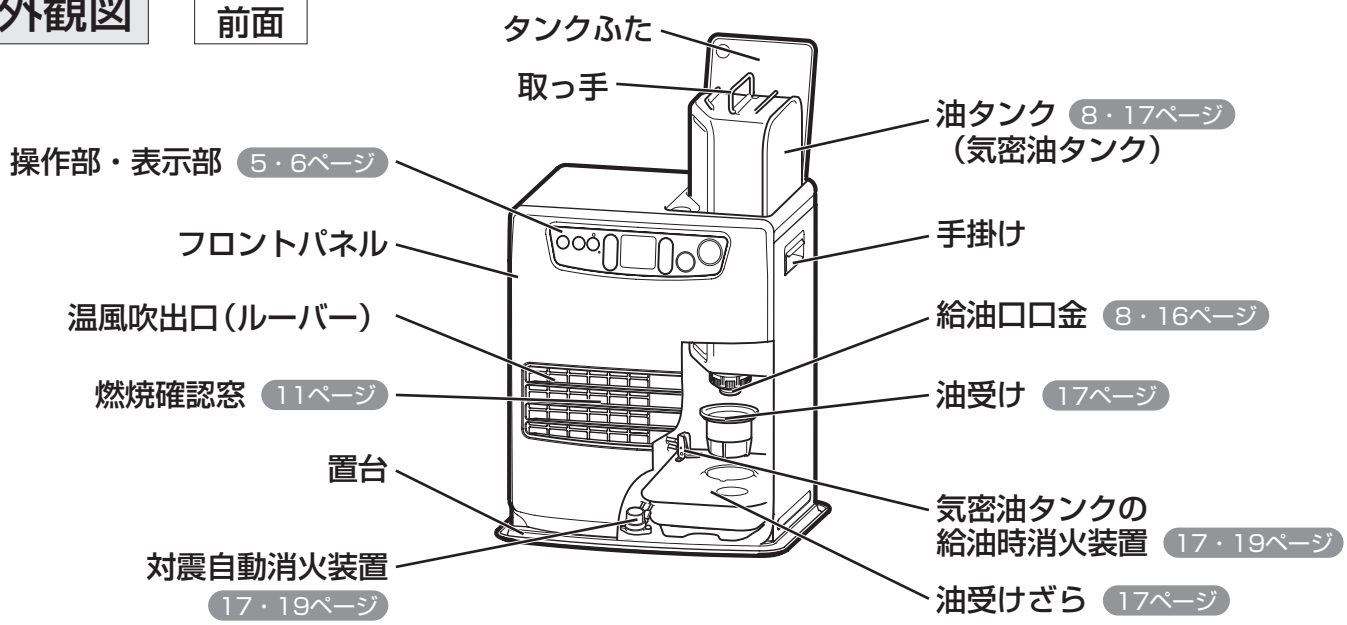
●外気に接する窓の下や壁面に設置すると効果的です。

**●熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
熱に強いマットなどを敷いてください。**

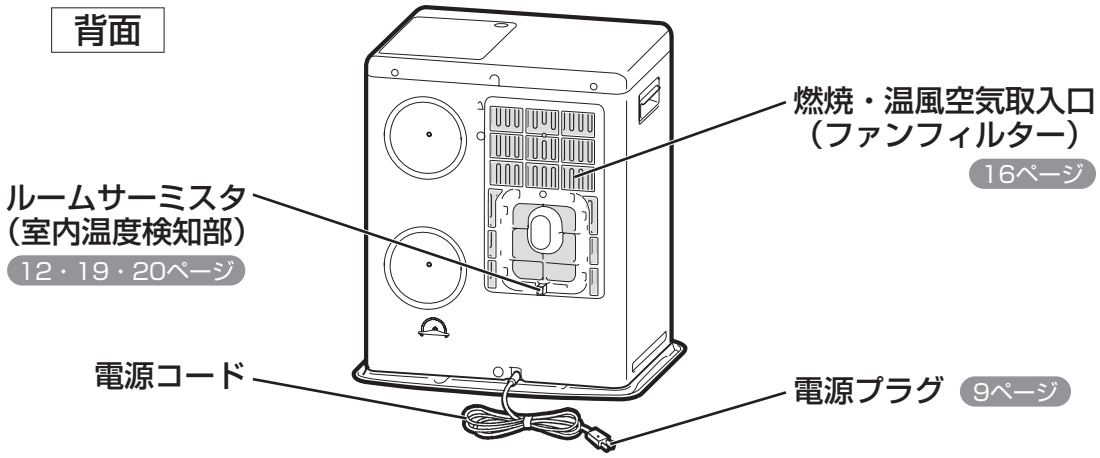
3 各部のなまえ

外観図

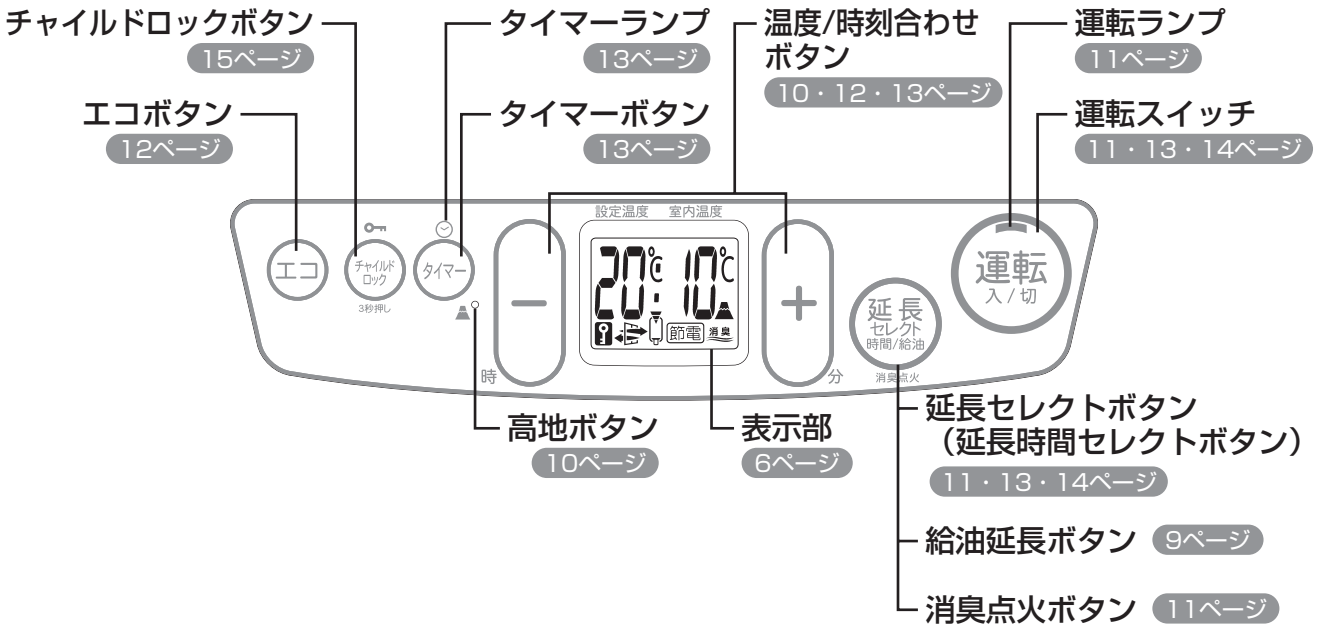
前面



背面



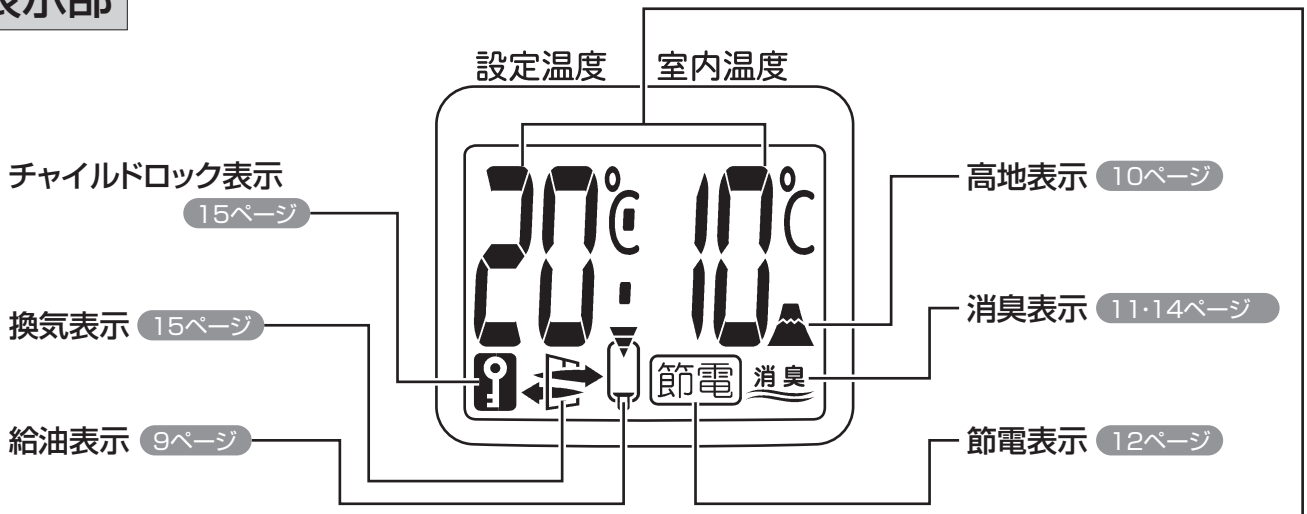
操作部



表示部の表面に保護シートを貼っていますので、取り除いてください

表示部

※表示部は説明のため、すべて表示した状態です。



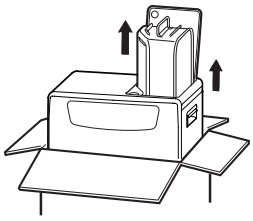
デジタル表示部（消臭点火が解除されている場合は、消臭 表示は消灯しています。）

	設定・室内温度表示 12ページ	設定温度… 12℃～28℃まで設定温度を選択できます。 室内温度… 0℃～32℃まで表示します。		**故障・異常によるエラー表示** 19ページ	自己診断機能により、故障時·異常時には「E-0」～「E-9」を表示します。
	現在時刻表示 10ページ	現在の時刻を表示します。		**不完全燃焼通知機能によるエラー表示** 19ページ	不完全燃焼通知機能の連続回数により「HH H1」～「HH H3」を表示します。
	タイマー運転時刻表示 13ページ	タイマー運転時刻表示と「⏲」が、点滅します。 ※タイマー運転終了時は「1 Hr」を表示します。 タイマーランプ		**再点火防止機能によるエラー表示** 19ページ	「HH H4」を表示します。
	残り燃焼時間表示 9・13・14ページ	残り燃焼時間を表示します。		**クリーニング燃焼表示** 15ページ	クリーニング燃焼の残り時間を表示します。（約5分間カウントダウンします。） ※異常ではありません。
	消し忘れ消火装置による自動消火表示 14ページ	「3 Hr」～「1 Hr」を表示します。 （消し忘れ消火装置で消火しました。）		**エコ運転表示** 12ページ	エコ運転中を表示します。 ※ − または ＋ を押すと、設定·室内温度表示に切り替わり、温度設定することができます。

4 使用前の準備

ストーブを取り出す

包装箱から包装材などを取り除き、製品を傷付けないように取り出してください。
包装箱や包装材はストーブを保管するときに必要です。取扱説明書も忘れずに保管してください。



燃料

⚠ 危険

★ガソリン使用禁止

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。少量の混入でも、火災の原因になります。

◉燃料は灯油（JIS1 号灯油）を必ず使用してください。

◉不良灯油（変質灯油、不純灯油）は、絶対に使用しないでください。

◉不良灯油（変質灯油、不純灯油）とは

灯油とガソリンの見分けかたのポイント	○ 灯油	× ガソリン
指先に使用燃料をつけて息を吹きかけます（火の気のない所でおこなってください。）	濡れたままです。	すぐ乾いてしまいます。

変質灯油とは

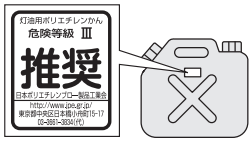
以下の様な保管をした灯油は、変質する可能性があります。
- ●保管の悪い持ち越し灯油。
- ●温度の高い場所で保管した灯油。
- ●日光の当たる場所で保管した灯油。
- ●乳白色のポリタンクで保管した灯油。
- ●灯油用ポリタンクのふたが開けてあった灯油。

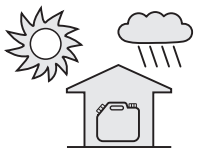
不純灯油とは

- ●水やごみなどが混入した灯油。
- ●ガソリン、軽油、シンナー、天ぷら油、機械油などが混入した灯油。
- ●灯油以外の油を入れたことがある容器に保管した灯油。
- ●水抜き剤や助燃剤を添加した灯油。

◉正しい灯油の保管方法

- ●灯油は屋内の冷暗所で保管してください。
- ●火気、雨水、ごみ、高温、日光を避けた場所で保管してください。
  翌シーズンに持ち越さないようにしてください。
- ●紫外線を通しにくい色付きの灯油用ポリタンク（推奨マーク付）を使用してください。
  乳白色のポリタンク（水用）は使用しないでください。
  ふたは、しっかり閉めて保管してください。
  但し、灯油は紫外線だけでなく温度でも変質するので、推奨マーク付の灯油専用容器でも日なたに放置しないでください。日なたに放置すれば変質灯油になってしまいます。

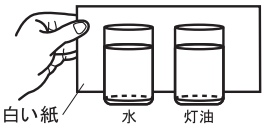


良い保管	悪い保管
直射日光、雨水が当たらず、火気のない冷暗所へ保管。 	直射日光、雨水の当たるベランダなど、室外の保管。 禁止

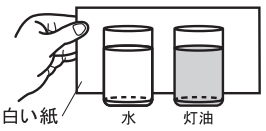
◉不良灯油（変質灯油、不純灯油）の見分けかた

- ●まずは、灯油が正しい保管状態であったかどうかご確認ください。
- ●次に、色で見分ける方法があります。
  2つのコップを用意し、片方には水、もう片方には灯油を入れます。その2つのコップの背後に白い紙をあて、色を比較し、灯油に色がついていたら変質灯油の可能性があります。変質灯油になるとうす黄色をおびた色になったり、すっぱい臭いがしたりします。（保管状態によっては、変色していなくても灯油が変質している場合があります。）
  また、水が混入した不純灯油の場合は、水が下にたまり、灯油と水が分離した状態になります。

水と同じ無色透明なら正常。



少しでも色がついていたら使用しない。



使用禁止

変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用すると

- ●変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用しますと、バーナーに多量のタールがたまり、点火しなくなったり、燃焼が悪くなったり、激しいにおいがしたりします。
- ●水の混入した灯油を使用しますと、炎が小さくなり火が消えてしまいます。また、油タンクに灯油が残っているのに、「 ⛽ 」を表示することがあります。
- ●ガソリン、シンナーなど揮発性の高い油を使用しますと、火災の原因になります。

万一変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使ったときの処置のしかた

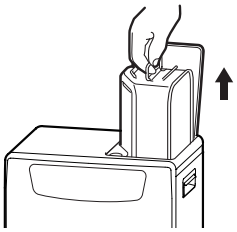
1 油タンク、油受け、油受けざら内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油で内部を2～3回洗ってからご使用ください。
（油受けの掃除、油タンク、油受けざらの掃除 17ページ参照）

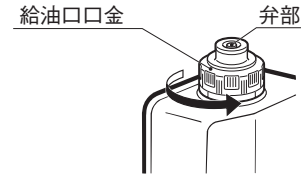
2 変質灯油や不純灯油などの不良灯油を抜き取っても効果のないときは、販売店までお問い合わせください。

お願い

変質灯油や不純灯油などの不良灯油が原因で、故障した場合の修理については、保証期間中であっても保証の対象外となります。

給油のしかた

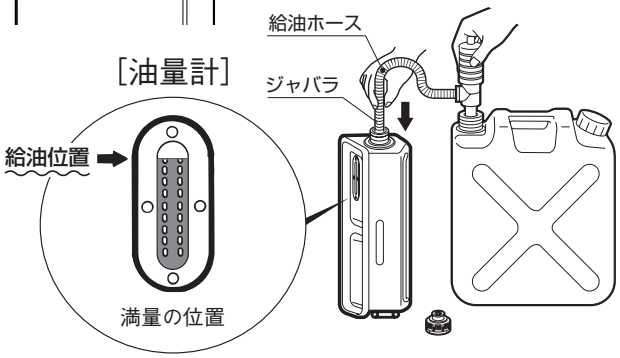




1 油タンクを取り出す。

●油タンクを取り出し、給油口口金を、左「↺」に回して開けてください。

●給油口口金を取りはずす前に、先端の弁部を押すと、給油口口金が取りはずしやすくなります。



2 油量計を見ながら給油する。

●市販の給油ポンプの先端をジャバラの手前まで深く差し込んで、油量計を見ながら給油してください。（ホースが抜けないよう手でささえながら給油してください。）

●灯油は、油量計のほぼ上部（右図の給油位置➡）まで給油してください。
油タンクの油面が上昇してくるとオレンジ色から黒色に変わります。
入れ過ぎますと、あふれ出ることがありますので充分注意してください。

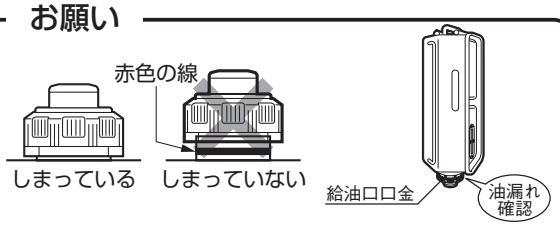
3 給油口口金を「カチッ」と音がするまで、右「↻」へ回して、しっかり締める。

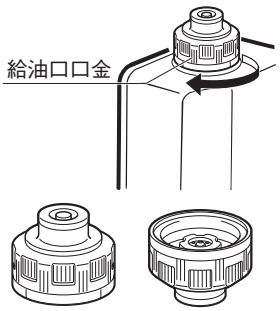
●カチカチと何度も音がしても大丈夫です。正しく締まると油タンクの赤色の線が見えなくなります。

●給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。

お願い

給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて、火災の原因になります。





〔本製品の給油口口金〕

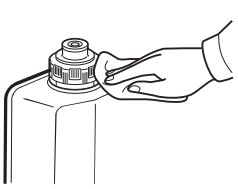
●油タンクから灯油が漏れる状態で使用しないでください。
火災のおそれがあります。

●同時に多数の油タンクに給油する場合は、類似している給油口口金がありますので、間違えないようにしてください。
灯油が出なくなったり、故障の原因になります。

●灯油容器のふたも、しっかり締めておいてください。

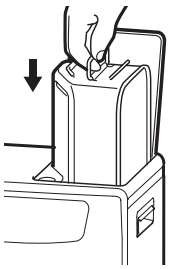
4 こぼれた灯油はよくふき取る。

●こぼれた灯油は必ずきれいにふき取ってください。危険ですし、燃焼中に臭気が発生する原因にもなります。



5 油タンクをセットする。

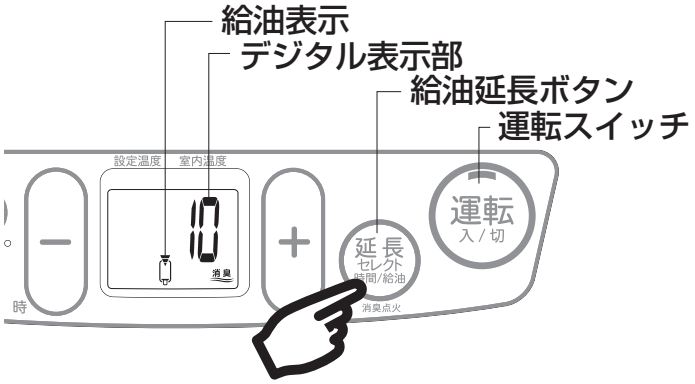
●油タンクを、本体に正しく、ゆっくりとセットしてください。



4 使用前の準備

給油の目安・給油延長運転のしかた

油タンクの灯油が空になっても、油受けざら内に残っている灯油を燃焼させることで、燃焼を延長（給油延長運転）させることができます。
給油延長運転中は、室温に関係なく最小の燃焼をします。



1 油タンクの灯油がなくなると、「 ⛽ 」表示が点灯し、「ピー」音が鳴ります。デジタル表示部に残り燃焼時間（分）「 10 」を表示します。

- 「運転スイッチ」を押して消火してから、給油してください。
- 給油しませんと、2分ごとに「ピー」音が鳴ります。約10分後に、「 ⛽ 」表示が点滅し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「- - - -」表示となり自動消火します。

2 給油延長運転をするとき

- 油タンクの灯油がなくなり「 ⛽ 」表示が点灯したときに、**「給油延長ボタン」**を押すと、「 ⛽ 」表示が点滅に変わり、給油延長運転をして**最大約60分間**の燃焼継続をします。デジタル表示部の残り燃焼時間表示（分）が変わります。
  給油延長運転中は「 ⛽ 」表示が点滅します。残り燃焼時間が10分以下になると2分ごとに「ピー」音が鳴ります。
- 自動消火する前に、「運転スイッチ」を押して消火してから給油してください。
- 給油しませんと、「 ⛽ 」を表示し、デジタル表示部の残り燃焼時間表示が「- - - -」表示となり自動消火します。

「給油延長ボタン」を押すと、時間延長（燃焼）も同時にセットされます。
（消火のしかた 14・15ページ参照）

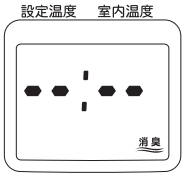
点火前の準備と確認

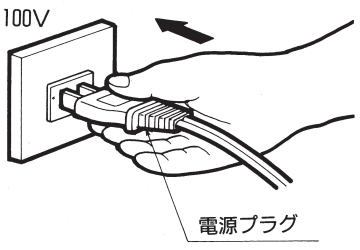
1 水平の確認をする。

- ストーブは振動のない、水平でしっかりした場所に設置してください。
  ストーブが、傾いてないか、不安定な状態になっていないか、必ず確かめてください。
- ストーブを傾いた状態で使用しますと、対震自動消火装置が誤作動することがあります。また、転倒しやすく、異常燃焼の原因になります。

2 電源プラグをコンセント（家庭用 AC100V）に確実に差し込む。

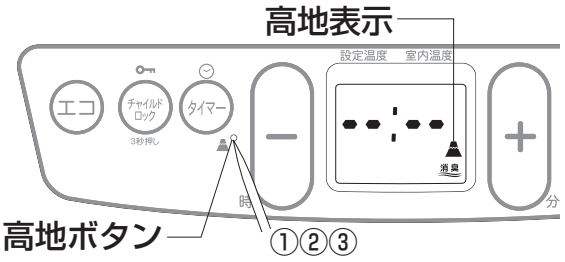
- 「ピー」音がします。
- デジタル表示部に「- - : - -」表示が点灯します。





高地調整

燃焼に必要な酸素濃度が薄くなる高地（500～1300m）では高地調整をしてください。



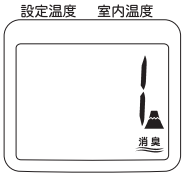
●高地設定は停電や電源プラグを抜いた後でも記憶しています。
●高地 1 設定でストーブを運転した場合、運転中「▲」表示が点灯します。
●高地 2 設定でストーブを運転した場合、運転中「▲」表示が点滅します。

設定のしかた

〔標高 500～800m（高地1設定）〕

① 細い棒状のもので「高地ボタン」を押しながら、電源プラグをコンセントに差し込む。

●「ピー」音がして「 1 」「▲」表示が点灯し設定されます。



〔標高 800～1300m（高地2設定）〕

② ①の操作で高地 1 設定をした後、再度細い棒状のもので、「高地ボタン」を押しながら、電源プラグをコンセントに差し込む。

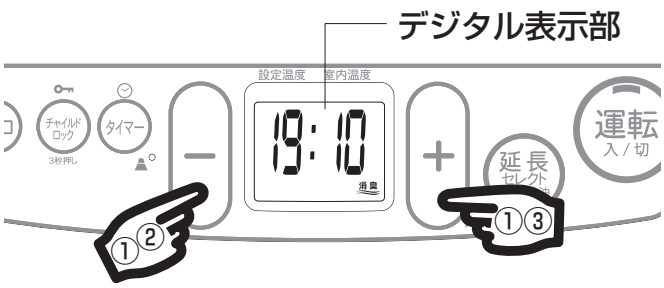
●「ピー」音がして「 2 」「▲」表示が点灯し設定されます。

解除のしかた

③ ②の操作で高地2設定をした後、再度細い棒状のもので、「高地ボタン」を押しながら、電源プラグをコンセントに差し込む。

●「ピー」音がして「▲」表示が消灯し解除されます。

現在時刻の設定のしかた （運転停止中にしかできません）



例　現在時刻が午後 7 時 10 分の場合

① −または＋のボタンを一度押す。
「ピー」音がして「- -　- -」表示が点滅します。

② デジタル表示を見ながら − のボタンを押して「19」に合わせる。

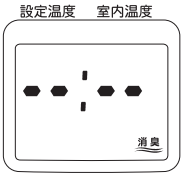
③ デジタル表示を見ながら ＋ のボタンを押して「10」に合わせる。

●− ・ ＋のボタンは、一度押すごとに1時間または1分間ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
●時刻合わせをする場合は、デジタル表示部の時計表示が点滅している間に − ・ ＋のどちらかのボタンを押してください。
時刻合わせができなかった場合は、もう一度 − または ＋ のボタンを押してやり直してください。

④「19」「10」が、点滅から点灯に変わり、設定が完了します。

お願い

●ストーブの時刻表示がズレる場合は、電源プラグを一度抜いて、もう一度差し込み直して、時刻を設定し直してください。
それでも直らないときはお買い求めの販売店までお問い合わせください。
●ストーブに初めて通電したときや、停電後や、電源プラグを抜いて再通電した場合、デジタル表示は右図のように「- - : - -」表示が点灯しますので、現在の時刻を設定してください。

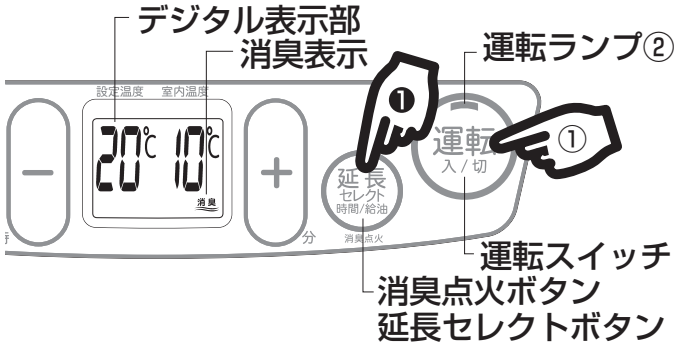


★省電力機能

デジタル表示部の時計表示は、約5分間経過しますと、省電力機能がはたらいて、デジタル表示部が消灯して、電力の消費を抑えます。
時刻を確認したい場合は、操作部の「運転スイッチ」以外のどれかのボタンを押すと表示します。「運転スイッチ」を押すと運転を開始します。（運転中及びタイマー運転待機中は、省電力機能がはたらきません。）

5 使いかた

点火のしかた



購入後初めてお使いになるときや、電源プラグを抜いた状態から再度お使いになるときには、消臭点火に設定してありますので、最初から「消臭」表示が点灯します。消臭点火は、点火までの時間を**約150秒**にして、予熱を充分におこない、点火時のにおいを少なくする点火方法です。

① 「運転スイッチ」を押して「入」にする。

- 「運転スイッチ」をしっかりと押してください。押すと、「ピー」音がして「運転ランプ」が点滅します。
- デジタル表示部に設定温度と室内温度を表示します。

油タンクに灯油があるのに「 」表示が点灯、または点滅している場合は、油受けを取り出し、ごみや水を捨て、灯油で洗浄してください。
（「油受けの掃除」17ページ参照）

② 約150秒後に自動的に点火し、「運転ランプ」が点灯に変わります。

★消臭点火解除方法

❶ **「運転スイッチ」**が**「切」**のときに**「消臭点火ボタン」**を押すと、**「消臭」**表示が消灯して消臭点火が解除され、点火までの時間が短かくなります。**（約90秒）**
室内温度が6℃を下まわる場合は、点火までの時間が**約150秒**のままです。

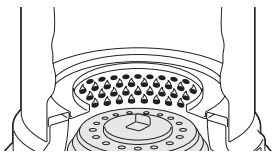
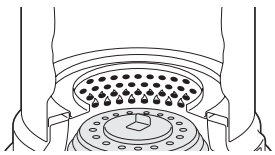
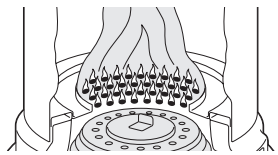
お願い

- 初めて運転するときや、ストーブを移動させたり、激しい振動が加えられた後に運転するとき、白煙（灯油の蒸気や蒸発物）が出ることがあります。これは、移動、振動によりバーナー（燃焼部）内に落ちた余分な灯油が蒸発することによるもので、一度点火し、余分な灯油がなくなれば白煙はなくなります。このような場合は刺激臭を伴ないますので、白煙がなくなるまでは（窓を開けるなど）換気をおこなってください。
- 点火時にバーナー（燃焼部）内で、「ボッ」という音や「ゴーゴー」という音がします。これは点火を確実にするためで異常ではありません。
- 点火時には少しにおいがあります。
- 燃焼中「チッチッチッ」というような音がすることがありますが、電磁ポンプの音です。また、燃焼中に「ジュッジュッ」、「シャンシャン」などの音がする場合がありますが、これは灯油が蒸発する音です。異常では、ありません。
- 消し忘れによる、万一の事故を防ぐために、点火後約3時間で自動消火をします。燃焼を継続する場合は、消火する前に「**延長セレクトボタン**」を押してください。（「消火のしかた」14・15ページ参照）

炎の状態

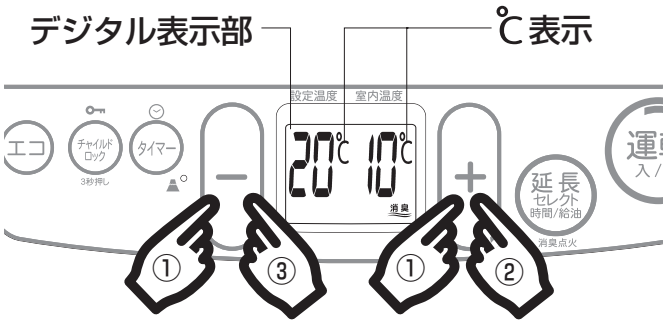
ストーブを使用するときは、正常に燃焼しているか燃焼確認窓から炎の状態を必ずご確認ください。

（ここに表示した状態は「強」（最大）燃焼の状態です）

	正　常	異　常	使用禁止
炎の図			
状態	●青炎燃焼で炎の先端に多少黄炎が入る。 ●炎の伸びや、燃焼音が小さい。	炎が黄色く燃焼音が大きい。	●炎が高く伸び、炎全体が黄色。 ●「ポー」というような異常音がする。
処置	――――	●燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）を掃除する。 ●お買い求めの販売店にご相談ください。	

室温の調節のしかた

（室温の調節は運転中にしかできません）



購入後初めてお使いになる場合は、「 20 」（20 ℃）が設定温度となります。

① −または＋ボタンを 1 度押す。

「ピー」音がして「℃」表示が、点滅します。

② 温度を上げるとき。

デジタル表示を見ながら＋のボタンを押す。

③ 温度を下げるとき。

デジタル表示を見ながら−のボタンを押す。

- 温度設定をする場合は「℃」表示が点滅している間に−・＋ボタンのどちらかを押してください。
  設定できなかった場合はもう一度押して、やり直してください。
- 設定温度は12℃～28℃、室内温度は0℃～32℃まで表示します。
- 設定温度にコントロールするために自動的に火力を調節します。
  火力が最小になると、デジタル表示部に「節電」を表示します。
- 一度温度設定しますと、その温度を記憶していますので変更をしない限り、消火後再運転する場合、同一設定温度になります。

お願い

- 温度調節は温風空気取入口近くの温度をルームサーミスタによって感知しておこないますので、ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしも、デジタル表示部の室内温度表示と、室温とは一致しません。

エコ運転のしかた

（エコ運転の設定／解除は運転中にしかできません）

エコ運転とは

小さなお部屋や断熱のよい部屋で使用したり、秋口・春先など外気温が高めのときに、室温が上がり過ぎると、自動的に消火して灯油の消費を抑えます。
また、体感する温度変化を感じにくくするために、設定温度を徐々に下げるとともに、燃焼量を抑えます。

設定のしかた

① 「エコボタン」を押す。

- 「ピー」音がして「E CO」表示に切り替わり、設定されます。
- エコ運転は一度設定すれば、記憶されます。ただし、設定が記憶されていても消火時には表示されません。

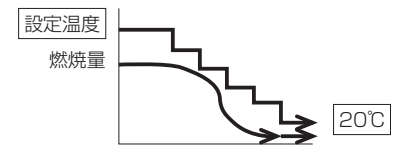
解除のしかた

② 「エコボタン」を押す。

- 「ピー」音がして設定・室内温度表示に切り替わり、解除されます。
- 電源プラグを抜いたり、停電があった場合は、自動的に解除されます。
- 解除後はエコ運転設定前の設定温度にもどります。

エコ運転中の制御

- 設定温度より室温が約3℃上昇すると、自動的に消火し、設定温度を下まわると自動的に再点火します。
  エコ運転の消火中は、運転ランプは点灯したままになり、デジタル表示部に「節電」を表示します。
  （「節電」は火力が最小のときも表示します。）
- 設定温度を自動的に下げます。

「エコボタン」を押す直前の設定温度	エコ運転中の設定温度（自動的に設定温度をさげる動作について）
26℃以上	25℃に切り替わり後、下記のように設定温度を徐々に下げます。
21～25℃	●室温が設定温度付近で安定した状態が続くと、自動的に設定温度を1℃下げ、これを設定温度が20℃になるまで繰り返します。 ●設定温度が自動的に下がることで、燃焼量も自動的に少なくなります。 
20℃以下	設定温度はそのままで、かわりません。

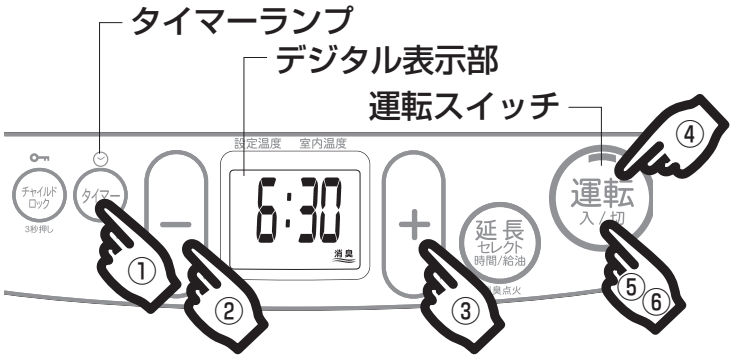
エコ運転中に設定温度を手動で変更するとき

- エコ運転中に−または＋ボタンを押すと、設定・室内温度表示に切り替わり、温度設定をすることができます。
  ただし、エコ運転中に設定温度を変更しても、再運転時は変更前の設定温度にもどります。

5 使いかた

タイマー運転のしかた （タイマーを使用して暖房を始めたいとき）

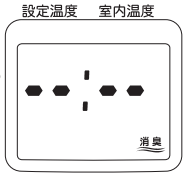
タイマー運転をする場合は、**現在時刻の設定のしかた**（10ページ）に従って、時刻合わせをしてからでないとタイマー運転できません。



通常、タイマー運転設定時刻の0分から25分前に運転を開始します。
このストーブのタイマー運転は、ファジーコントロールで、お部屋の大きさと室温により自動的に運転時刻を決定し、設定時刻には、お部屋を暖かくしておきます。

設定のしかた

例 午前6時30分に設定したいとき



①「タイマーボタン」を押す。
「ピー」音がしてデジタル表示部が「- - : - -」表示に変わり、「タイマーランプ」が点滅します。

② デジタル表示を見ながら(−)のボタンを押して「 6 」に合わせる。

③ デジタル表示を見ながら(+)のボタンを押して「 30 」に合わせる。

- (−)・(+)のボタンは、一度押すごとに1時間または5分間ずつ進みます。押し続けますと連続的に進みます。
- 時刻合わせをする場合は、「タイマーランプ」が点滅している間に(−)・(+)のどちらかのボタンを押してください。
- 設定できなかった場合は、もう一度「タイマーボタン」を押してやり直してください。

④「タイマーランプ」が点滅している間に、「運転スイッチ」を押して「入」にする。
- 「運転スイッチ」をしっかりと押してください。押すと、「タイマーランプ」が点灯し、デジタル表示は現在の時刻を表示してセットが完了します。

- タイマー運転は、一度タイマー運転時刻を設定すれば、変更しない限り、「タイマーボタン」を押して「タイマーランプ」の点滅中に、「運転スイッチ」を押して「入」にするだけで同一時刻で設定が完了します。（停電や電源プラグを抜いた後でもタイマー時刻を記憶しています。）
- 「運転スイッチ」が、「入」になっているときに、「タイマーボタン」を押すと、タイマーランプが点滅し、設定された時刻が表示され、少し待つと、「タイマーランプ」が点灯しタイマー運転が設定されます。
- タイマー運転時刻を変更する場合は前記と同手順でおこなってください。

解除のしかた

タイマー運転を設定した後に、タイマー運転の解除あるいは通常運転をおこないたい場合。

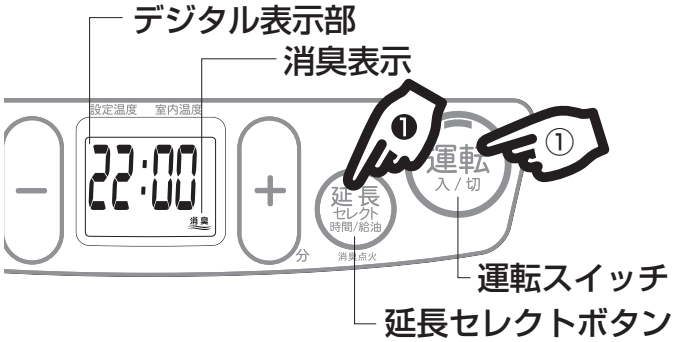
⑤「運転スイッチ」を押して**「切」**にする。→［タイマー運転の解除］

⑥「運転スイッチ」を再度押して**「入」**にする。→［通常運転開始］

タイマー運転の注意事項

- タイマー運転をした場合、**点火後約1時間後に自動的に消火**し、「タイマーランプ」が点灯した状態で、デジタル表示部の「 IN 」表示が点灯します。連続運転するときは、タイマー運転の点火後 1 時間以内に**「延長セレクトボタン」**を押してください。これは閉め切った部屋で長時間、換気せずに燃焼すると、空気不足で危険となるためで、手をふれない場合は、自動的に消火します。
- **残り燃焼時間**が、10分になるとデジタル表示部に数字で 10. 9・・1 と表示し、2分ごとに「ピー」音でお知らせします。
- 通常運転中に「タイマーボタン」を押すと、消火して「タイマー運転」の待機状態になり、タイマー運転時刻に自動的に点火します。
（ただし現在時刻を設定してからでないと、「タイマー運転」の待機状態になりません。）
- タイマー運転時刻の確認は、タイマー運転待機中または運転停止時に「タイマーボタン」を押すと、約10秒間表示します。
- タイマー運転操作後に停電があったとき、ストーブを揺らして対震自動消火装置が作動したときは点火しません。

消火のしかた



①「運転スイッチ」を押して「切」にする。

- 「運転スイッチ」をしっかりと押してください。押すと、「ピー」音がしてデジタル表示部は現在の時刻を表示し、「 消臭 」表示が点滅して、消臭機能の作動中を表示します。
- 消火後、しばらくはストーブ内部を冷やすために対流用ファンは回転し続けます。（この間、「 消臭 」表示は点滅しています。）
- 時計表示中に5分間経過しますと省電力機能がはたらいて、デジタル表示が「消灯」します。（**★省電力機能** 10ページ）

消火時の注意

- 消火後、対流用ファンが止まるまで、電源プラグをコンセントから抜かないでください。音が出たり、炎が出たり、すすが発生して再点火後に安全装置が作動してエラーで停止することがあります。（**異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）** 19ページ参照）
- 緊急のときを除いて、消火は必ず「運転スイッチ」を使用してください。電源プラグを抜いて消火させないでください。

お願い

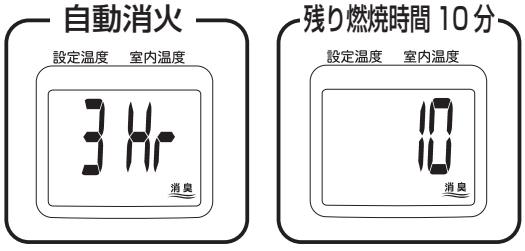
- 消火操作をしたときは「運転ランプ」の消灯とバーナー（燃焼部）内の火が消えることをご確認ください。
- 消火時にはバーナー（燃焼部）内で「ボッ」という音や「ゴーゴー」という音や「ジー」という電磁音がします。これは消火を確実にするためで異常ではありません。
- 消火直後、燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）は高温になることがあります。
- 点火してすぐに消火操作をしたとき、きつい臭気が発生することがあります。点火後約 20 分はできるだけ消火しないでください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

消火後再点火するときの注意

- **消火後すぐに再点火すると、異常音が出ることがありますので、しばらく待ってから再点火してください。**
- ストーブが暖かいうちに再点火操作をしたときの予熱時間は、**約40秒**です。

消し忘れ消火装置

- 消し忘れによる、万一の事故を防止するために、**点火してから約3時間運転が継続すると、デジタル表示部に「 3Hr 」を表示して、自動消火します。**
- 残り燃焼時間が、10分になると「デジタル表示部」に数字で「 10 」を表示し、1分経過するごとに「 10 」から「 9、8・・1 」と表示します。
- この間、2 分ごとに「ピー」音でお知らせします。



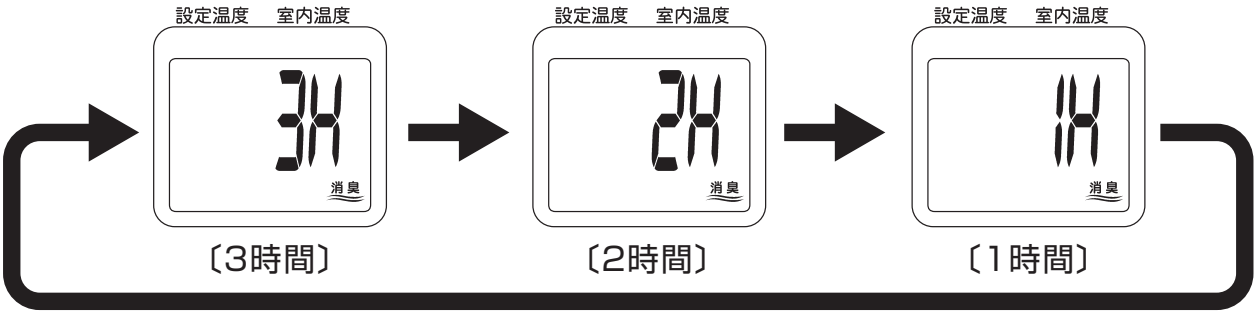
運転を延長・継続するとき（延長時間をセレクトするとき）

❶ 延長セレクトボタンを押す

- 継続して運転したいときは、自動消火する前に「延長セレクトボタン」を押してください。
- 「延長セレクトボタン」を押すと運転継続時間が表示され、押すごとに表示が切り替わり、3時間、2時間、1時間のいずれかを選択できます。
  選択したときから選択した時間だけ、さらに運転を継続します。
- 選択が完了すると、自動的に設定温度・室内温度表示に切り替わります。

5 使いかた

運転を延長・継続するとき（延長時間をセレクトするとき）（つづき）



お願い

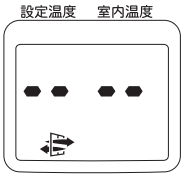
●継続して長時間運転するときは、お部屋の換気に充分注意してください。

クリーニング燃焼表示

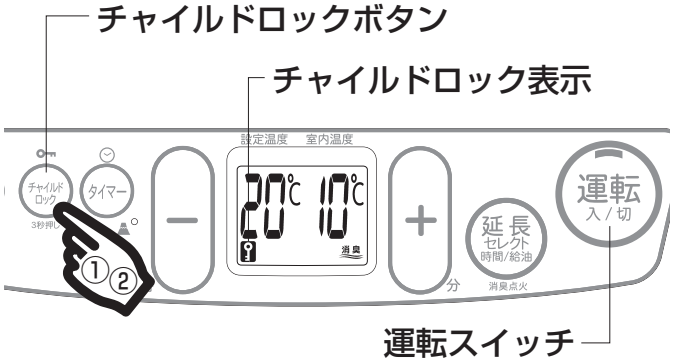
●クリーニング燃焼はバーナー（燃焼部）内の汚れを除去するための燃焼です。
●強燃焼で約2時間以上の連続運転をしますと、デジタル表示部に「CL:05」を表示して自動的に弱燃焼によるクリーニング燃焼をおこないます。(約5分間カウントダウンします)その後自動的にもとの燃焼状態にもどります。

換気表示

●閉め切った部屋などで長時間運転をすると不完全燃焼防止装置が作動して「 」表示が点滅し「ピー」音が5秒間鳴って運転を停止し、デジタル表示部に「-- --」表示が点滅します。
●連続して不完全燃焼防止装置が作動した場合は、不完全燃焼通知機能が作動します。
(異常のお知らせ（デジタル表示の見かた） 19ページ参照)
●運転して1時間経過するたびに「 」表示が約1分間点灯します。
「 」表示にたよらず、1時間に1～2回（1～2分程度）は必ず部屋の換気をしてください。



チャイルドロックのしかた



チャイルドロックは、お子様のいたずら操作の防止や、誤って「運転スイッチ」を押しても点火しないようにしたいときに使用します。

設定のしかた

① **運転中や運転停止中に「チャイルドロックボタン」を3秒以上長押しすると「 」が点灯し、チャイルドロックが設定されます。**

●運転中は「運転スイッチ」で消火のみ操作可能です。設定温度の変更などの他の操作はできません。
●運転停止中はすべての操作ができません。

解除のしかた

② **チャイルドロックが設定されているときに「チャイルドロックボタン」を3秒以上長押しすると「 」が消灯し、チャイルドロックが解除されます。**

6 日常の点検・手入れ

点検・手入れのしかた

点検・手入れをおこなうときは

●点検・手入れをするときは、必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、ストーブの温度が充分下がってからおこなってください。やけどや感電をするおそれがあります。
●部品に触るときや、内部を掃除するときは、手をけがしないように、手袋をはめておこなってください。
●ストーブをベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色します。
●電装品やバーナー（燃焼部）の取りはずし、分解はおこなわないでください。

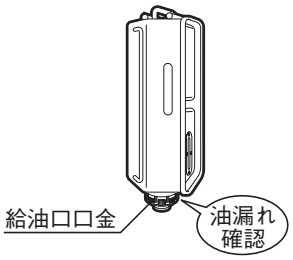
使用のたびに

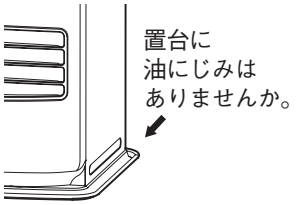
周囲の可燃物の点検

ストーブの周囲は、常に整理、清掃し、燃えやすい物を置かないようにしてください。

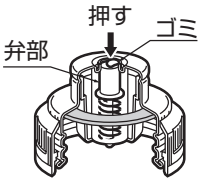
油漏れ、油のたまり、油のにじみの点検

万一油漏れによって、油のたまり、油にじみが生じているときは、消火操作をし、原因を確かめ防漏処置をし、油漏れがなくなったことを確認した後、漏れた灯油を取り除いてから点火操作をしてください。





●油タンクの給油口口金の弁部などに、ごみがはさまっている場合がありますので取り除いてください。



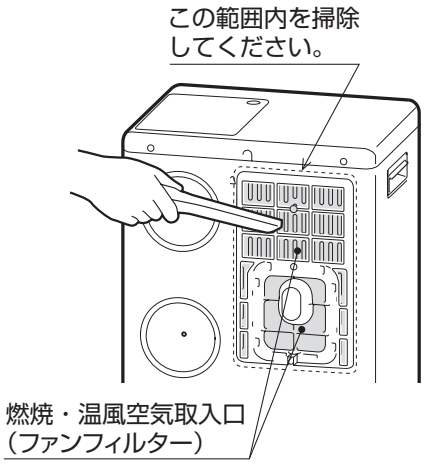
ほこりの掃除

●ストーブに付いたほこりや汚れは、掃除機で吸い取ったり固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。汚れたままのご使用は危険のもとですし、ストーブの傷みを早めます。

1週間に1回以上

燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）の掃除

●ストーブ背面にある燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）にごみやほこりが目づまりしますと、燃焼用の空気量が減って不完全燃焼の原因になったり、温風用の空気量が減って過熱防止装置がはたらいて消火します。
●燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）に付いているほこりを、掃除機などで吸い取ってください。
●燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）の目がつまっている場合がありますので、やわらかいブラシなどで燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）の目のつまりを掃除してください。
●布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。



お願い

燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）は取りはずさないでください。
ルームサーミスタが断線したり、感電のおそれがあります。

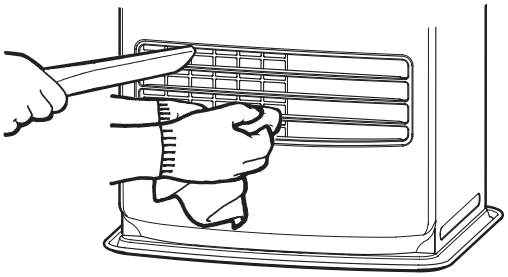
1箇月に1回以上

温風吹出口（ルーバー）の掃除

温風吹出口（ルーバー）が汚れたり、ほこりが付着した場合は、掃除機や、固くしぼった濡れ雑巾などでふき取ってください。

お願い

このとき必ずストーブを消火し、電源プラグをコンセントから抜いて、温風吹出口（ルーバー）が冷えてからおこなってください。やけどをするおそれがあります。



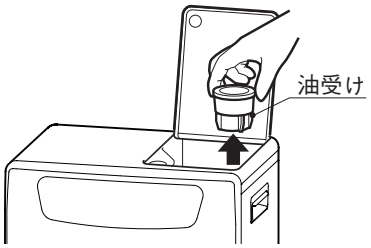
6 日常の点検・手入れ

油受けの掃除

●油受けは、灯油は通しますが水は通しにくいフィルターでできています。油受けに水やごみがたまると、油タンクに灯油があるのに、「 」表示が点灯することがあります。
●「油タンク」を取り出してから、「油受け」を傾けないように取り出し、たまった水やごみを取り出してください。

お願い

油受けは、水で洗わないでください。
必ずきれいな灯油で洗ってください。



対震自動消火装置の点検

●燃焼中にストーブをゆすって、自動的に消火するか点検してください。
●自動的に消火しますと、デジタル表示部に「E- 5」を表示します。

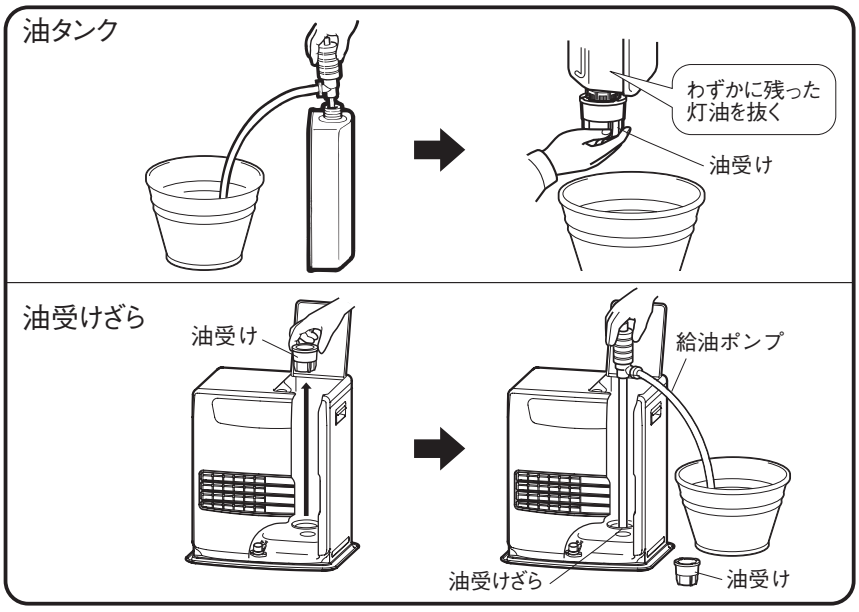
気密油タンクの給油時消火装置の点検

●燃焼中に油タンクを抜いて、自動的に消火するか点検してください。
●約5秒後に自動的に消火しますと、デジタル表示部に「-- --」「 」を表示します。

1シーズンに1～2回以上

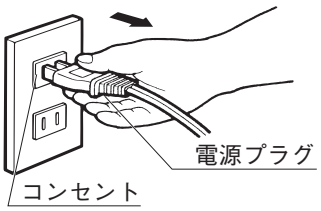
油タンク、油受けざらの掃除（※油タンク内の灯油の抜きかた）

ストーブから油タンクと油受けを取り出し、市販の給油ポンプ（手動式）などで油タンク内や油受けざら内の水やごみを取り除いてください。
油タンク内のわずかに残った灯油は、油タンクに給油口口金を取り付け、油受けを給油口口金に押し当て、油タンクを上下左右にゆすって抜いてください。



電源プラグ、コンセントの点検

電源プラグ、コンセントにほこりや汚れがたまると火災の原因になることがあります。
電源プラグをコンセントから抜いて、付着したほこりや汚れを取り除いてください。



7 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。機器の寿命をより長く、より良い燃焼で快適に安全にお使いいただくために、2年に1回程度、シーズン終了後などに、お買い求め店、または修理資格者〔(一財)日本石油燃焼機器保守協会（℡03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店、弊社などに点検依頼されることをおすすめします。（有料）

愛情点検

●長年ご使用の石油ファンヒーターの点検を！

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後8年です。

ご使用の際このようなことはありませんか	ご使用中止	故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検・修理をご依頼ください。
●油漏れする。 ●燃焼中強いにおいがする。 ●炎が異常に黄色い。 ●予熱時間が異常に長い。 ●運転中異常な音がする。 ●その他の異常・故障がある。	▶	

8 設計上の標準使用期間

設計上の標準使用期間について

設計上の標準使用期間とは、適切な取り扱いや維持管理にて標準的な使用条件の下で使用した場合に安全上支障なく使用することが出来る期間として、設計上設定される期間で、型式ごとに設定されるものです。
設計上の標準使用期間を過ぎての製品使用については、経年劣化により安全性が損なわれ、ひいては重大製品事故に至るおそれがあります。設計上の標準使用期間は、不具合なく製品を使用しても、点検・取替えの検討をするための目安時期として記載しています。
なお、設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なるものですのでご注意願います。

設計上の標準使用期間の算定の根拠

本製品の設計上の標準使用期間は (一社) 日本ガス石油機器工業会が発行した「自主基準　石030　石油暖房機の設計上の標準使用期間の表示について」に規定してあるように「自主基準　石028　開放式石油ストーブの標準使用条件、標準加速モード及び試験条件」に基づき以下の条件を想定して設定しています。

項目	条件
年間使用時間	1,900時間
年間燃焼回数	700回(コールドスタート:300回、ホットスタート400回)
火力	最大燃焼

本製品の設計上の標準使用期間は、上記に基づき8年相当と算出しています。
<ご注意ください>
●本製品を上記の標準的な使用時間を超える使用頻度や異なる環境でお使いいただいた場合においては、設計上の標準使用期間よりも早期に安全上支障を生じるおそれが多くなることが予想されますので、早めに点検・取替えの検討をしていただきますようにお願い致します。
本製品には、本体に「製造年表示」が記載されています。
一般家庭での使用環境において、標準的な使用時間より使用頻度が低い場合は、製造年から8年経過が点検・取替えの目安ですので参考にしてください。
●本製品を目的外の用途で使用したり、業務用に使用されるなど、上記の標準使用条件と異なる環境で使用された場合も設計上の標準使用期間の到来前に経年劣化等による重大事故発生のおそれが高まることが予想されますが、このようなご使用は、お控えいただくようお願いいたします。

日常的に行うべき保守の内容について

●本製品を安全にご使用いただくためには、お客様においても日常的に掃除や安全確認をおこなっていただくようにお願いいたします。
「日常の点検・手入れ」（16・17ページ）に記載の方法で掃除や安全確認をおこなってください。
●掃除や異常を感じた場合の措置をおこなう際には、ストーブを消火し、ストーブの温度が充分に下がってからおこなってください。
●**「故障・異常の見分けかたと処置方法」**（19・20ページ）に基づいて調べて異常が生じた場合は、直ちに使用を中止してお買い求めの販売店にご連絡ください。

定期点検について

●**「定期点検」**（17ページ）にあるように2年に1回程度、定期点検(有料)の実施をお願いします。

9 故障・異常の見分けかたと処置方法–修理を依頼される前に–

異常のお知らせ（デジタル表示の見かた）

安全装置が作動すると、自動消火します。また、デジタル表示部に故障・異常の原因が表示「エラー表示」されます。
繰り返し表示するときや運転しないときは、お買い求めの販売店へご連絡ください。

デジタル表示（エラー表示）	原因[安全装置]	処置方法
E-0	●燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）・温風吹出口(ルーバー)が物でふさがれたり、ほこりがたまったため、自動消火しました。 **[過熱防止装置の作動]**	●燃焼・温風空気取入口(ファンフィルター)、温風吹出口(ルーバー)の掃除をしてから再点火してください。（**「日常の点検・手入れ」**16・17ページ参照） ●ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
F-0	●運転中に停電や電源プラグを抜くなどして、自動消火しました。 ●タイマー運転待機中に停電し、その後電源が入りました。 **[停電安全装置の作動]**	●再点火操作をしてください。 ●電源プラグなど電源をご確認ください。 ●電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
E-2	●点火不良。 ●シリコーン配合製品を使用したため、燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。（★シリコーン配合製品を使用しない 4ページ参照） ●油受けざらに水やごみが混入したことによる点火不良。または、点火してすぐに消火しました。 ●消火後すぐに再点火操作をしました。 **[点火安全装置の作動] [燃焼制御装置の作動]**	●修理が必要です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。 ●油タンク、油受けざら内の水やごみを取り除いてから、再点火してください。（油タンク、油受けざらの掃除 17ページ参照） ●しばらく待って、電源プラグを差し直してから、再点火操作をしてください。
E-23	●消火後すぐに再点火操作をしました。	●しばらく待って、再点火してください。
E-5	●本体を傾けたり、強い振動、衝撃を受けたため自動消火しました。 ●地震（震度約５以上）により消火しました。 **[対震自動消火装置の作動]**	●ストーブが傾いていないか確認してから、再点火操作してください。 ●地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、ストーブの損傷、油漏れなどがないことを確認した後、再点火してください。
E-6 - - - - 換気	●換気不良・手入れ不良、その他の異常によりバーナー（燃焼部）への空気の供給が不足したので不完全燃焼による危険を防止するため、自動消火しました。 **[不完全燃焼防止装置の作動]** ●シリコーン配合の商品を使用したため、燃焼部にシリコーン酸化物が付着しました。（★シリコーン配合製品を使用しない 4ページ参照）	●燃焼・温風空気取入口(ファンフィルター)の掃除をし、窓やドアを開けて充分に部屋の換気をしてから、再点火してください。 燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）の掃除 16ページ参照） ご使用中は必ず1時間に1～2回換気してください。 ●修理が必要です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。
HH1 HH2 HH3	●不完全燃焼防止装置が連続して作動すると、不完全燃焼通知機能がはたらきお知らせします。（HH1からHH3表示） **[不完全燃焼通知機能の作動]**	●不完全燃焼通知機能がはたらいたときは、上記処置をおこなった後、電源プラグを差し直してから、再点火してください。処置をしても繰り返し作動するときはお買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示)などをご連絡ください。
HH4	●換気しないでそのままさらに不完全燃焼防止装置(不完全燃焼通知機能)が作動すると、再点火防止装置がはたらき、消火して点火できなくなります。（HH4表示） **[再点火防止機能の作動]**	●再点火防止装置がはたらいたときは、お客様では処置できません。運転スイッチを「切」にしてお買い求めの販売店まで「デジタル表示」(エラー表示)などをご連絡ください。
E-7	●ルームサーミスタが室温33℃以上を感知しました。	●ストーブの周囲の障害物を取り除いてください。
E-81	●電源周波数に異常が発生しました。	●電源プラグを入れ直してください。 ●電気系統の故障です。お買い求めの販売店まで「デジタル表示」(エラー表示)などをご連絡ください。
- - - - 給油	●灯油がなくなり消火しました。 ●油タンクを取り出したため、気密油タンクの給油時消火装置が作動しました。 **[気密油タンクの給油時消火装置の作動]**	●灯油を給油してから再点火操作をしてください。 ●油タンクを戻してから再点火操作をしてください。 ●油受けに水やごみが混入しているときは、取り除いてください。
1Hr	タイマーランプ ●タイマー運転が終了しました。	●再点火操作をしてください。
3Hr	●消し忘れ消火装置にて消火しました。 ●燃焼継続時間が3時間のときは「3Hr」を、2時間のときは「2Hr」を、1時間のときは「1Hr」を表示します。 **[消し忘れ消火装置の作動]**	●再点火操作をしてください。
CL:05	●クリーニング燃焼中。 （約5分間カウントダウンします。）	●約5分後に自動的に通常運転にもどります。 ●異常ではありません。
全消灯	●省電力機能が作動しました。	●操作部のいずれかのボタンを押してください。
上記以外のエラー表示（E-1、F-1、E-9、E-8）	●修理が必要な故障です。	●お買い求めの販売店まで「デジタル表示」（エラー表示）などをご連絡ください。

修理を依頼される前に

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

点火時・消火時

現象	原因
初めて運転するときや、ストーブを移動させたり、激しい振動が加えられた後に運転するとき、白煙 (灯油の蒸気や蒸発物) が出る。	移動、振動によりバーナー (燃焼部) 内に落ちた余分な灯油が蒸発することによるもので、一度点火し、余分な灯油がなくなれば、白煙はなくなります。
点火時や消火時ににおいが出る。	灯油の気化ガスが出るため、多少においます。 異常ではありません。
点火時に「ボッ」や「ゴーゴー」という音がする。	点火を確実にするためで異常ではありません。
消火時に「ボッ」や「ゴーゴー」という音や「ジー」という電磁音がする。	消火を確実にするためで異常ではありません。
点火時や消火時に「ピチピチ」という音がする。	加熱、冷却時に出る金属の膨張、収縮音です。

燃焼中

現象	原因
においがする。	●不良灯油 (変質灯油) を使用するとにおいがします。 不良灯油 (変質灯油) を使用している場合は良質の灯油に交換してください。 ●灯油がこぼれたままになっているとにおいがします。 乾いた布などで、きれいにふき取ってください。
炎がオレンジ色に輝く。	海岸に近いところなど空気中に塩分が多い場合、空気中にほこりや水分が多い場合、超音波加湿器を使用している場合、炎がオレンジ色に輝くことがあります。
青炎燃焼で炎の先端に多少黄炎が入る。	炎全体が黄炎になっていなければ、異常ではありません。
燃焼中、火力が切り替るときに「キシミ音」がする。	加熱・冷却時に出る金属の膨張・収縮音です。
燃焼中に「チッチッチッ」というような音がする。	電磁ポンプの動作音です。異常ではありません。
燃焼中に「ジュッジュッ」、「シャンシャン」などの音がする。	灯油が蒸発する音です。異常ではありません。
燃焼中にときどき「パタパタ」「ボーボー」という音がする。	燃焼音です。異常ではありません。
室内温度が設定温度より高くなる。	ルームサーミスタが本体近くにある障害物によってまわりこんだ温風や直射日光にあたって、室内温度表示が上がり過ぎてしまうことがあります。
室内温度表示が部屋の温度計と一致しない。	温度調節は燃焼・温風空気取入口 (ファンフィルター) 近くの温度を感知しておりますので、ストーブの位置や部屋の大きさなどで、必ずしもデジタル表示部の室内温度表示と室温は一致しません。
本体側面や油タンクが熱くなる。	燃焼熱により熱くなりますが、異常ではありません。

その他

現象	原因
タイマー設定ができない。	現在時刻が設定されていません。
消火後、対流用ファンが回転する。	ストーブ内部を冷却のため、回転します。 電源プラグは抜かないでください。
ときどき「ボコボコ」と音がする。(燃焼中、消火後)	油タンクから油受け皿に灯油が出る音です。
油タンクに灯油が入っているのに点火しない。 給油表示が点滅する。	油受けに水やゴミが付着し、目つまりを起こしている。 油受けの掃除を行ない、そのあと乾燥させてください。
温風吹出口が汚れる。	掃除をしてください。

10 部品交換のしかた

部品交換のときの注意

●部品交換や修理をお受けになる場合は、お買い求めの販売店か、(一財) 日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者 (石油機器技術管理士) などのいる販売店で修理されることをおすすめします。
●不完全な修理は危険です。
●故障したものは使わないでください。

●短時間に消耗する部品は特にありませんが、交換部品が必要な場合は、お買い求めになった販売店にご相談ください。(補修用性能部品について 22ページ参照)
●インターネットでの部品購入は、https://store.toyotomi.jp/ をご覧ください。
●部品は必ずトヨトミ純正部品 (指定された部品) をご使用ください。

11 保管（長期間使用しない場合）

●ストーブを保管する場合は、**「日常の点検・手入れ」**（16・17ページ）の項を参照して、ストーブの手入れをしてから保管してください。また、破損している箇所は修理をしてから保管してください。
●格納・保管場所は、湿気・火気・高温などの悪い影響のうけにくい所であって、しかもストーブの上には重量物をのせたり、人がのったりしないよう配慮してください。

1 **ストーブを消火し、ストーブの温度が充分下がってから、電源プラグをコンセントから抜く。**

2 **燃焼・温風空気取入口（ファンフィルター）、温風吹出口（ルーバー）、電源プラグに付着したほこりや汚れを掃除してください。**

●燃焼·温風空気取入口（ファンフィルター）は布などでふくのはおやめください。かえって目づまりします。

3 **油タンク、油受けざら内の灯油、ごみ、水気を取り出す。**

（油タンク、油受けざらの掃除 17ページ参照）

●油タンク、油受けざらに水やごみが残ったまま保管すると、錆や穴あきの原因になります。

4 **ストーブの表面をよくふいて、汚れを取る。**

●固くしぼった濡れ雑巾や、薄めた中性洗剤液で汚れを取り、乾いた布で水気をふき取ってください。（シンナー、ベンジンなどではふかないでください。）

5 **包装箱に入れて保管する。**

●湿気の少ない所に保管してください。
●傾けたり、横にして保管しないでください。抜けきれなかった灯油が漏れることがあります。
●取扱説明書も必ず保管してください。

12 廃棄するとき

●油タンク、油受けざらの掃除（17ページ）を参照して、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってから、各自治体の指導に従って廃棄してください。
●灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった販売店にご相談ください。

13 仕　様

型式の呼び		WA－N33
種類		ポット式・強制通気形・強制対流形
点火方式		電気点火
使用燃料		灯油（JIS1 号）
燃料消費量	最大	3.25kW（0.316L／h）
	最小	0.79kW（0.077L／h）
暖房出力	最大	3.25kW
	最小	0.79kW
油タンク容量		5L
燃焼継続時間		15.8 時間（最大燃焼時）
外形寸法		高さ 428mm　幅 376mm　奥行 296mm（置台を含む）
質量		7.7kg
電源電圧及び周波数		100V・50／60Hz
定格消費電力		点火時 320／320W　燃焼時 11／12W　待機時 0.6／0.6W 最大 950／950W（点火初期に短時間発生）
騒音値（正面）※		最大燃焼時 34dB　　最小燃焼時 18dB
電流ヒューズ		4A
安全装置		対震自動消火装置、点火安全装置、燃焼制御装置
		過熱防止装置（90℃）、停電安全装置、消し忘れ消火装置
		不完全燃焼防止装置（フレームロッド A，バーナーサーミスタ方式）
		気密油タンクの給油時消火装置

※騒音値の数値は JIS 測定方法（JIS S 3031）に基づく正面値です。

14 アフターサービス

保証について

●**この商品は保証書付きです。保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。**
●**保証期間はお買い求めの日より3年間です。**

修理を依頼するとき

●**「故障・異常の見分けかたと処置方法」**（19・20ページ）に従って、処置をおこなってください。直らないときは、使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店、または下記 **お客様相談窓口** に修理をご依頼ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
①品名…石油ファンヒーター（強制通気形開放式石油ストーブ）
②型式の呼び…本体側面に表示
③お買い求め年月日
④故障の状況（できるだけ具体的に）
⑤おなまえ・おところ・電話番号
●修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の無料修理規定に従って、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。
●修理の際に、運搬されるときは、油タンク、油受けざら内の灯油を抜き取ってください。

この取扱説明書とストーブに表示されている禁止事項・注意事項及び通常使用に反して使用された場合の故障、事故は保証いたしません。
その他詳細の保証内容については、保証書の記載内容をご覧ください。

補修用性能部品について

●石油ファンヒーターの補修用性能部品の保有期間は製造打切り後8年です。
●補修用性能部品とは、ストーブの機能を維持するために必要な部品です。

消耗・劣化する部品

●**使用期間により、交換・メンテナンスが必要な部品…**
送油ノズルパッキン、点火ヒーターパッキン、クロスマット、燃焼リング、フレームロッド、給油口口金、油受け
●**変質灯油、不純灯油などの不良灯油の使用で劣化しやすい部品…電磁ポンプ、クロスマット**

転居される場合

●本製品は電源周波数50、60Hzとも同一仕様です。
●電源周波数の異なった地域への転居でもそのままお使いいただけますが、高地への転居、高地からの転居は再調整が必要です。（**高地調整** 10ページ参照）

故障・修理の際の連絡先

アフターサービスについてご不明な点は、お買い求めの販売店、または下記 お客様相談窓口 までお問い合わせください。

株式会社 トヨトミ お客様相談窓口

フリーコール **0120-104-154** **FAX 052-857-1220**

受付時間　平日(月曜～金曜)午前9時～午後5時　※土・日・祝日は除く
ホームページ　https://www.toyotomi.jp/

トヨトミ 石油ファンヒーター 保証書

本保証書は、本書記載内容により無料修理をおこなうことをお約束するものです。
お買い求めの日から下記期間内に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

型　式　**WA-N33**　　**保証期間　お買い求め日より3年間**

※お買い求め日　　年　　月　　日

※お客様　ご芳名　　様

〒□□□-□□□□

ご住所

〔電　話　　（　　）　　〕

※販売店名・住所・電話番号

※印欄に記入がない、あるいは購入・支払いを証明するものがない場合は有料修理となりますから必ず確認し、**購入証明書（領収書）を保管してください。**

【 無 料 修 理 規 定 】

1．お買い求め日から上記保証期間中に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容により、お買い求めの販売店または弊社が無料修理致します。
2．無料修理をお受けになる場合は、本書あるいは購入日・支払いを証明するものをご提示のうえ、お買い求めの販売店または弊社にご依頼ください。
なお、離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3．ご転居やご贈答品等でお買い求めの販売店に修理を依頼できない場合は、弊社までお問い合わせください。
4．**保証期間内でも、次の場合は有料になります。**
（イ）取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従わない使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
（ロ）お買い求め後の器具の転倒、落下、衝撃、輸送等による故障及び損傷。
（ハ）火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧、公害その他環境要因やシリコーン配合製品が原因による故障及び損傷。
（ニ）指定以外の燃料、または変質灯油や不純灯油などの不良灯油を使用された場合の故障及び損傷。
（ホ）一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車両・船舶への搭載など）に使用された場合の故障及び損傷。
（ヘ）部品の消耗による故障や損傷、部品交換及びメンテナンスの費用。
（ト）定期点検の費用。
（チ）本書にお買い求め年月日・お客様名・販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。通信販売等で購入され、それを証明する商品の送り状・支払明細書の提示がない場合。ネット販売等を利用した個人売買品や譲渡品、中古品の修理。
（リ）修理のご依頼に際して本書のご提示がない場合。
5．本書は日本国内においてのみ有効です。
6．本書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

●この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い求めの販売店または、弊社の**お客様相談窓口**までお問い合わせください。
●保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間について詳しくは、取扱説明書「アフターサービス」の項をご覧ください。
●お客様の個人情報は、弊社規定により、厳格に管理します。保証期間内のサービス活動、及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

修理メモ

株式会社 トヨトミ
〒467-0855　名古屋市瑞穂区桃園町5番17号
お客様相談窓口　0120-104-154
受付時間　平日（月曜～金曜）午前9時～午後5時
※土・日・祝日は除く
FAX　052-857-1220
ホームページ　https://www.toyotomi.jp/